

決算説明会

2021年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2021年2月5日

吉田です。

本日は、私より2021年3月期第3四半期の連結実績について説明し、その後、代表取締役会長兼社長の貝沼より今期のポイントをご説明します。

3Q連結業績サマリー

売上高は第3四半期として過去最高

(百万円)	2020年3月期 3Q	2021年3月期 2Q	2021年3月期 3Q	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
売上高	267,650	274,267	275,709	+3.0%	+0.5%
営業利益	23,299	17,557	19,595	-15.9%	+11.6%
税引前利益	23,246	16,975	19,392	-16.6%	+14.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	19,232	13,239	16,172	-15.9%	+22.2%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	46.35	32.42	39.60	-14.6%	+22.1%

為替レート	2020年3月期 3Q	2021年3月期 2Q	2021年3月期 3Q
US\$	108.79円	105.90円	104.76円
ユーロ	120.02円	123.56円	123.56円
タイバーツ	3.59円	3.41円	3.38円
人民元	15.37円	15.16円	15.62円

2021/2/5

2

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

2021年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で3.0%増、前四半期比で0.5%増の2,757億900万円となりました。

営業利益は、前年同期比で15.9%減、前四半期比で11.6%増の195億9,500万円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で15.9%減、前四半期比で22.2%増の161億7,200万円となりました。

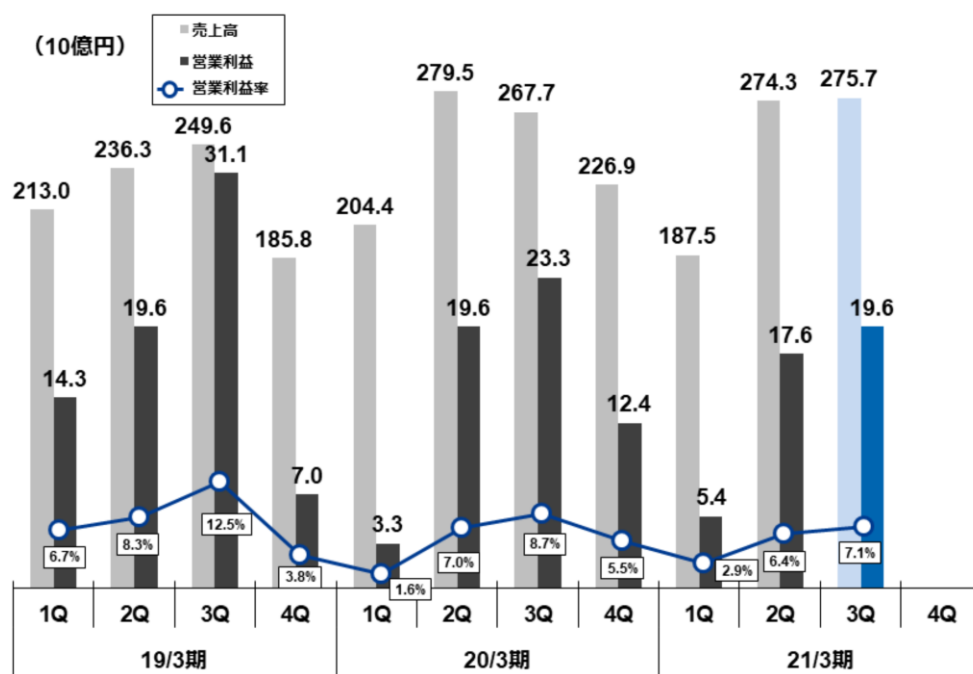
なお、当第3四半期の営業利益にはコロナ対策費用等 約8億円が含まれています。

為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス14億円、前年同期比マイナス66億円、営業利益で前四半期比マイナス7億円、前年同期比マイナス13億円、との推計です。

なお、ユーシンのPPAに伴い前期の財務諸表を若干遡及して修正をしています。

以降のページでは修正後の数値を使用していますのでご注意ください。

売上高、営業利益、営業利益率



2021/2/5

3

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

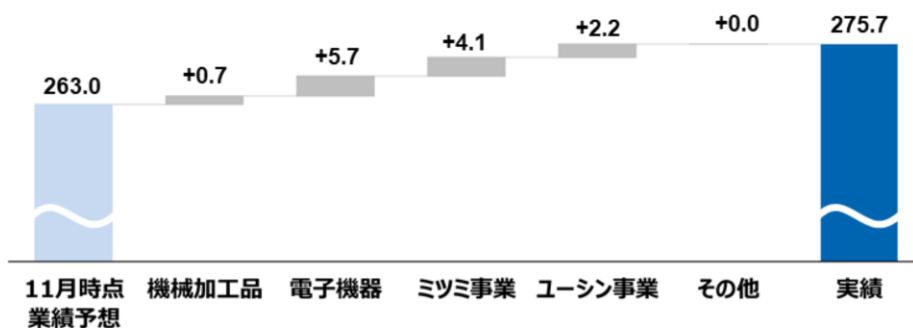
売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第3四半期の営業利益率は7.1%となりました。これは前年同期比では1.6ポイント低下、前四半期比では0.7ポイントの上昇となりました。

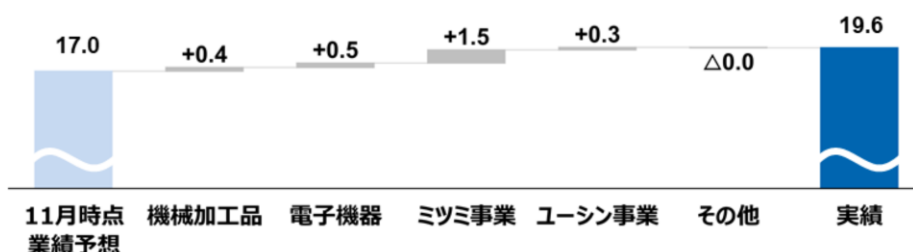
3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2021/2/5

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、11月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、機械加工品事業セグメントは、航空機向けは想定を下回ったものの、それ以外において自動車向けを中心として全般的に堅調に推移したことにより想定を上回りました。

電子機器事業はモーター、エレクトロデバイスにおいて想定を大きく上回りました。

ミツミ事業においては、機構部品、アナログ半導体を始めとした全製品において想定を上回りました。

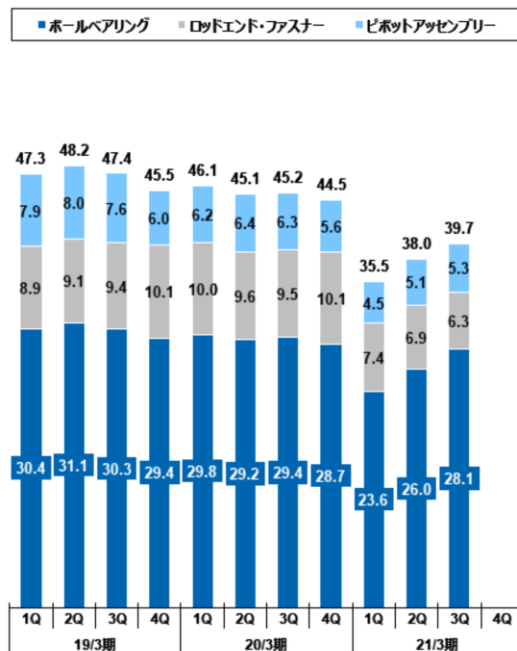
ユーシン事業においては、自動車市場の回復に伴い想定を上回りました。

営業利益においては、機械加工品事業セグメントにおいては、主にボールベアリングの外販数量の伸びとそれに伴う生産性の改善により想定を上回りました。

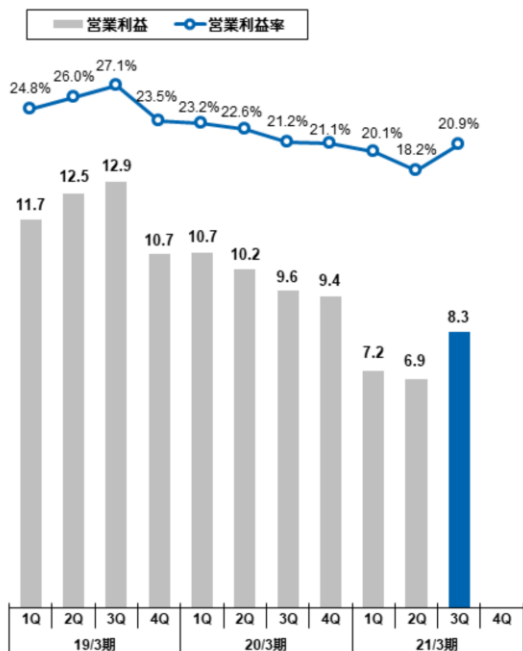
電子機器事業、ミツミ事業、およびユーシン事業においては、売上の増加に伴って営業利益も想定を上回りました。

機械加工品事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/2/5

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは機械加工品事業セグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第3四半期の売上高は397億円、前四半期から4.4%の増加となりました。

ボールベアリングの売上高は281億円、前四半期比で8.4%の増加となりました。外販数量は月平均で2億2,200万個、前四半期比で13.8%増でした。自動車向けの数量の伸びが引き続きけん引しました。また、航空機向けベアリングにおいては、市場の低迷を受けて引き続き低調な売上高となっています。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は63億円となり、前四半期比で9.5%の減少でした。航空機の生産機数はまだ回復に至っておらず、当面はこのトレンドが継続すると想定しています。

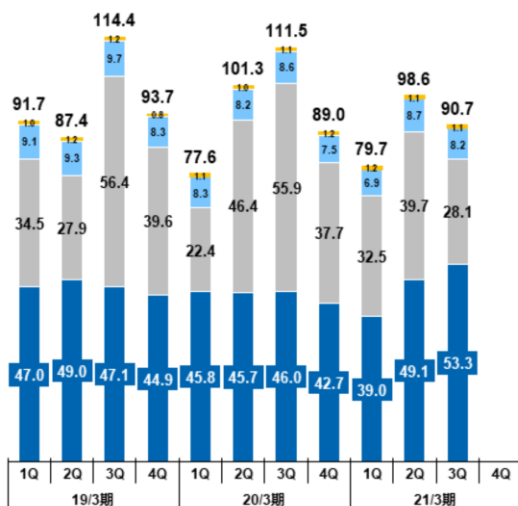
ピボットアッセンブリーは53億円となり、前四半期比で3.2%の増加となりました。

営業利益ですが、当四半期は83億円、営業利益率は20.9%となりました。営業利益は前四半期比20.3%の増加となり、営業利益率では2.7ポイントの上昇となります。製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーともに前四半期比で増益となりました。

電子機器事業セグメント

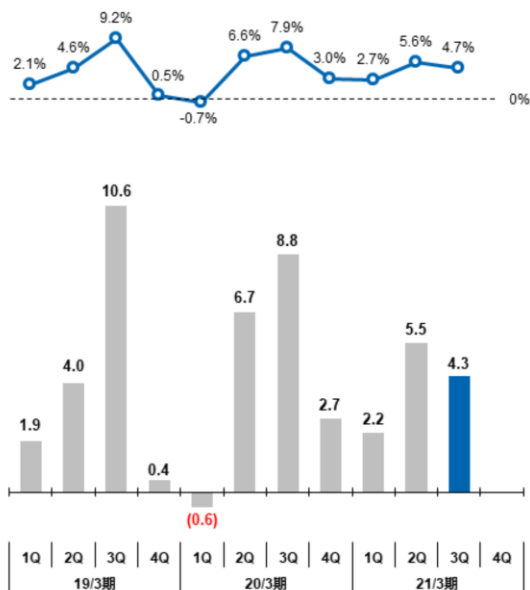
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2021/2/5

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは電子機器事業セグメントの四半期毎の推移です。

売上高は907億円、前四半期比で8.0%減となりました。

製品別では、モーターは前四半期比8.5%増の533億円となりました。これは、主に自動車向けを中心に省エネルギーに対する需要の高まりを受けて、すべてのモーターが堅調に推移したことによります。

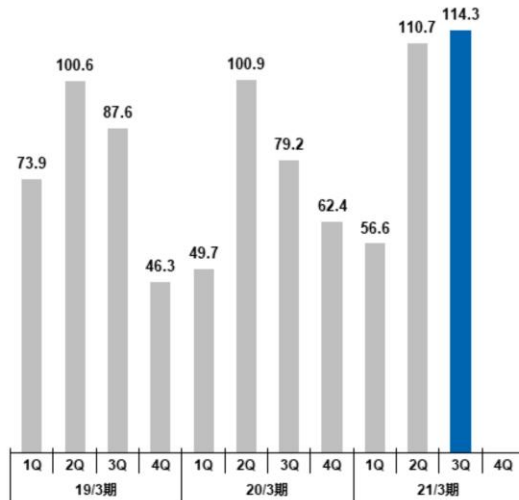
エレクトロデバイスは281億円、前四半期比29.4%の減少となりました。これは、主要顧客のLEDバックライト採用モデルが需要期を過ぎたことによります。

センシングデバイスの売上高は82億円となり、前四半期比で5.3%減少しました。

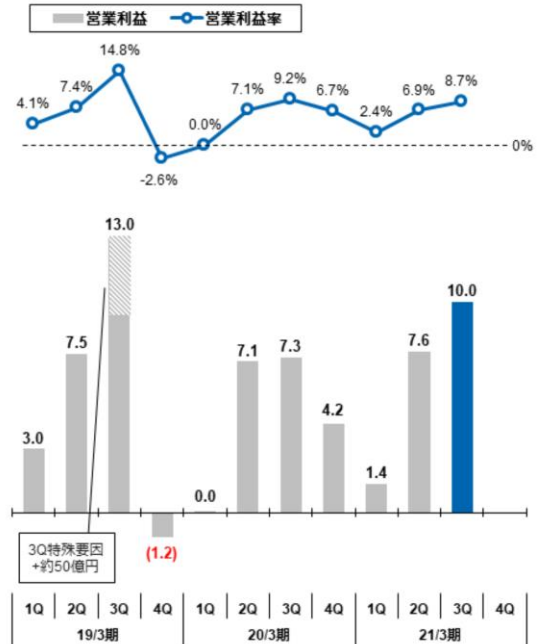
営業利益は43億円、営業利益率は4.7%となりました。前四半期比では営業利益で21.9%減少、営業利益率0.9ポイント低下となりました。製品別では、モーターは増益となったものの、エレクトロデバイスやセンシングデバイスは売上高の減少により減益となりました。

ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/2/5

7

MinebeaMitsumi

Precision to Create Value through Difference

こちらはミツミ事業セグメントの四半期毎の推移です。

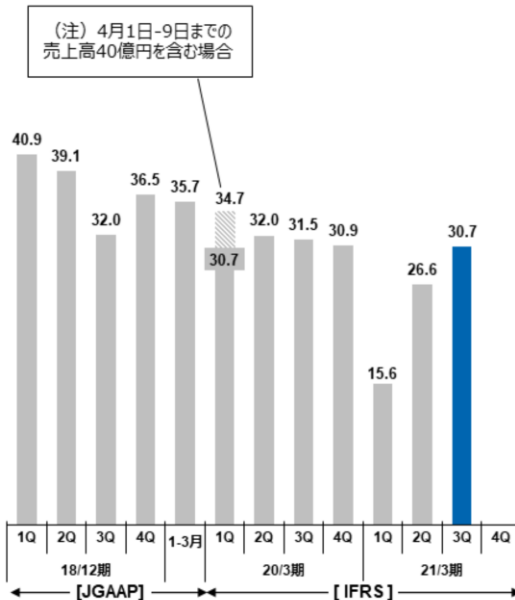
売上高は、1,143億円と前四半期比3.2%の増加でした。機構部品は需要期を過ぎたことにより減収となりましたが、その他事業においては光デバイスおよび半導体を中心に好調に推移し増収となりました。

営業利益は100億円となり、営業利益率は8.7%となりました。前四半期比では営業利益で30.8%増、営業利益率で1.8ポイント上昇となりました。これは、光デバイス、アナログ半導体を中心とする高収益事業の製品ミックスが上昇したことによります。

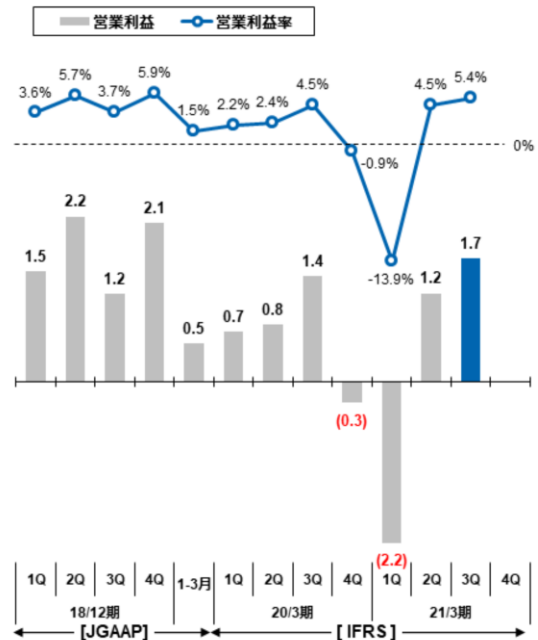
ユーシン事業セグメント

19年1-3月以前は経営統合前の参考値でJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



*PPAにより、20/3期は修正

2021/2/5

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ユーシン事業セグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は307億円、前四半期比で15.6%の増加となりました。これは、地域や顧客により回復はまだ模様であるものの、自動車市場全体の回復に伴い増収となりました。

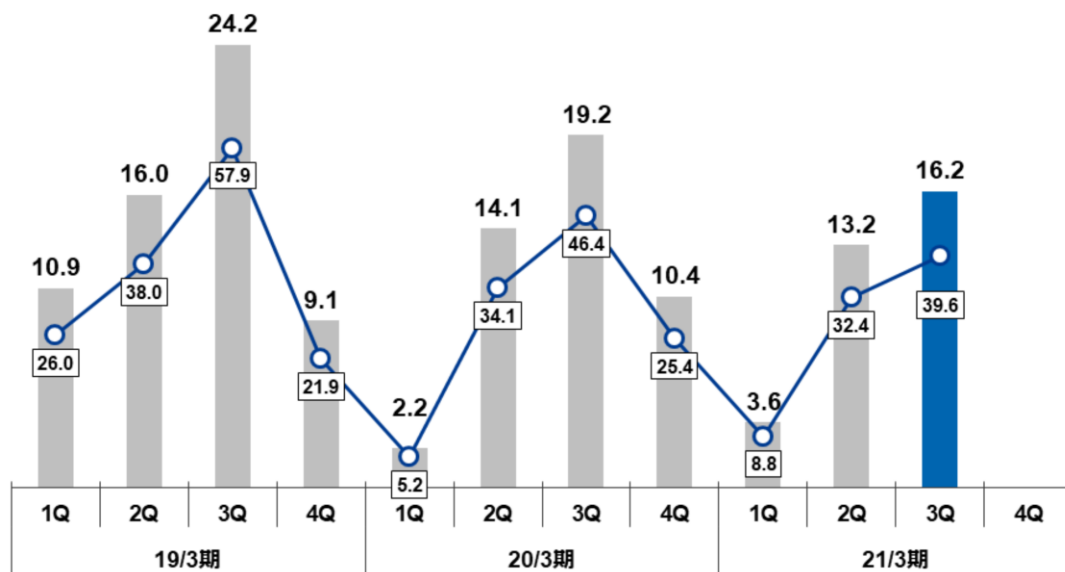
営業利益は17億円、営業利益率は5.4%となりました。前四半期比では営業利益で39.4%増、営業利益率で0.9ポイント上昇となりました。売上高の回復に伴う収益性の改善に加え、経営統合以降の品質改善や生産性の向上、経営管理体制の強化などにより前四半期に続き増益となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益

○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2021/2/5

9

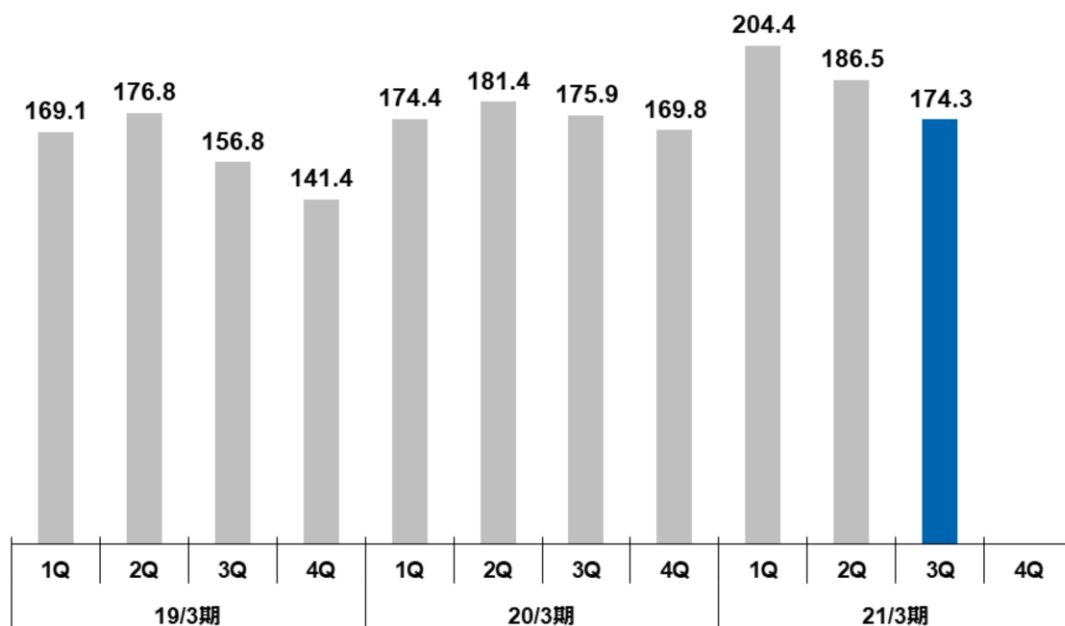
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は162億円、1株当たりでは39.6円となりました。

棚卸資産

(10億円)



2021/2/5

10

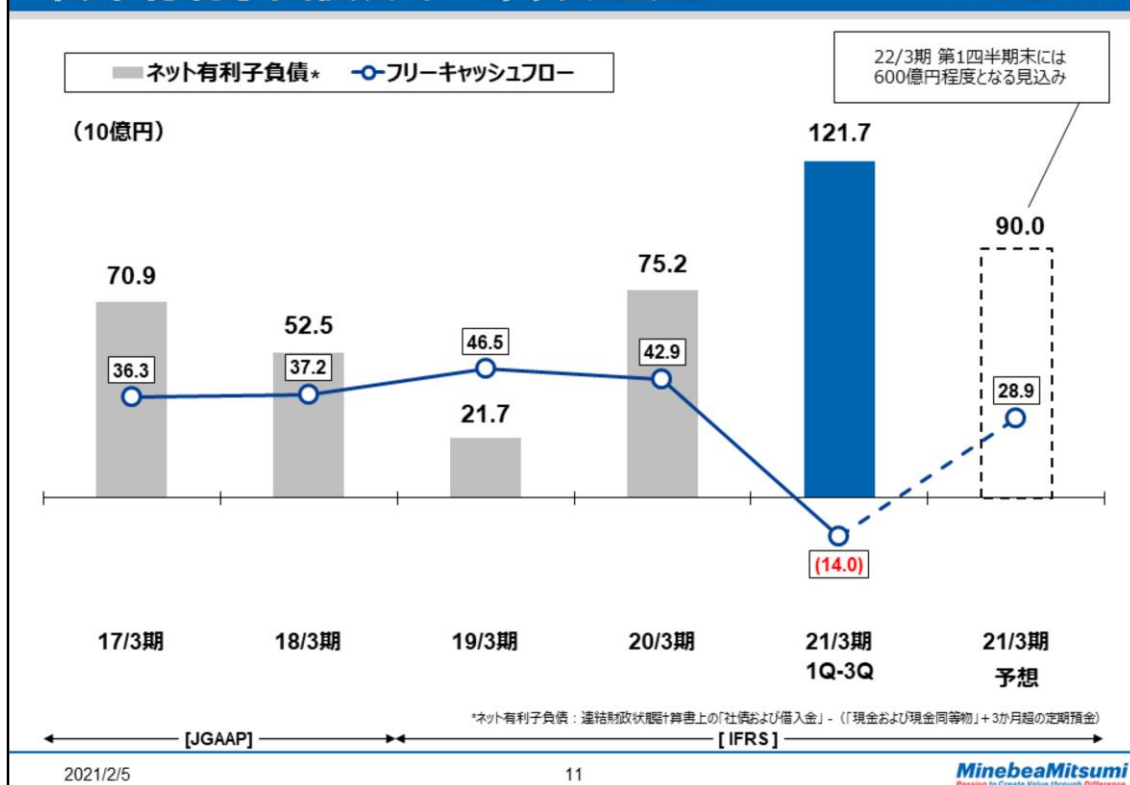
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第3四半期末は1,743億円となり、3カ月前と比べると122億円の減少となりました。これは、足元で見込まれている販売増のために必要な在庫は確保しつつも、第1四半期末の時点で戦略的に積み上げた在庫が、順次想定通りに消化されたことなどによります。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第3四半期末におけるネット有利子負債は1,217億円となり、2020年3月末から465億円増加しました。これは、主にエイブリックの株式取得費用339億円、およびC&Aの株式追加取得費用46億円などによります。

なお、ネット有利子負債につきまして、2021年3月末の予想を900億円と前回の見通しよりも増加することを見込んでいますが、これは主に第4四半期の売上高が想定を上回ることによる運転資本の増加によるもので、来期の第1四半期には売上代金の回収が進むこと等により、6月末には600億円程度まで減少することを見込んでいます。

営業利益は580億円に上方修正^{*}

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	978,445	461,730	518,270	980,000	+0.2%
営業利益	58,647	22,921	35,079	58,000	-1.1%
税引前利益	58,089	22,249	34,751	57,000	-1.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	45,975	16,812	28,188	45,000	-2.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	111.11	41.16	69.03	110.19	-0.8%

為替レート	2020年3月期 通期	2021年3月期 4Q想定
US\$	109.12円	103.50円
ユーロ	121.27円	125.00円
タイバーツ	3.52円	3.45円
人民元	15.68円	16.00円

^{*} 一時的な費用（構造改革費用、エイブリックのPPAなど）が発生する可能性があります。現在精査中のため業績予想には含めておりません。

2021/2/5

12

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

2021年3月期の通期業績予想につきましては、第3四半期の実績が当初の見込みを上回ったことに加え、第4四半期も引き続きエレクトロデバイス、半導体、ボールベアリング等の堅調な需要が見込まれることから、昨年11月に修正させていただいた業績予想を上方修正させていただきました。

修正の内訳は、売上高について9,400億円から9,800億円、営業利益について500億円から580億円などとなっています。

なお、構造改革費用およびエイブリックのPPAなど一時的な費用が60億円から80億円程度発生する可能性があります。現在精査しており上記の業績予想には含めていません。数値が判明し次第、必要に応じて業績予想の修正をさせていただく予定です。

第4四半期の為替レートは、1ドル103.5円を想定しています。

セグメント別業績予想

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	978,445	461,730	518,270	980,000	+0.2%
機械加工品	180,885	73,548	81,452	155,000	-14.3%
電子機器	379,422	178,274	181,726	360,000	-5.1%
ミツミ事業	292,243	167,346	192,654	360,000	+23.2%
ユーシン事業	125,145	42,153	61,847	104,000	-16.9%
その他	750	409	591	1,000	+33.3%
営業利益	58,647	22,921	35,079	58,000	-1.1%
機械加工品	39,874	14,064	16,936	31,000	-22.3%
電子機器	17,552	7,681	10,319	18,000	+2.6%
ミツミ事業	18,656	8,984	15,016	24,000	+28.6%
ユーシン事業	2,598	△974	2,974	2,000	-23.0%
その他	△1,502	△831	△1,169	△2,000	+33.2%
調整額	△18,531	△6,003	△8,997	△15,000	-19.1%

2021/2/5

13

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

以上で私からの説明を終わります。

今期のポイント（ポストコロナへ体制強化）

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

全体

- 通期業績予想は580億円*に上方修正。
- 足元の需要は大幅に回復傾向。世界景気回復に合わせて**当社高品質製品は自然体で伸びていくことを再確認。**
- 巣ごもり需要に代表される**“NEW LIFE STYLE” への変化。**
⇒当社のさまざまな製品の需要を押し上げている。

機械加工品

- ボールベアリングは生産性改善が進み、最大で**月産325百万個が確立。**
来期大幅増益の土台が完成。
⇒追加投資により**来期末までに月産345百万個体制を目指す。**
- **5月にさらなる成長戦略を発表予定。**

電子機器 ミツミ事業

- **モーターは収益構造の変化と大幅な市場成長により**
着実に利益を生み出す体質へ。
- **スマホ・ゲームは想定以上に堅調。**
- **アナログ半導体はフル稼働で収益貢献。**

ユーシン事業

- **来期の大幅増益を図る。ただし、構造改革の効果は来期後半から実現する予定。**

* 一時的な費用（構造改革費用、エイブリックのPPAなど）が発生する可能性がありますが、現在精査中のため業績予想には含めておりません。

2021/2/5

14

貝沼です。

今期の営業利益について、昨年5月の決算説明会では500～600億円のレンジでご案内し、昨年11月の決算説明会では下限の500億円とご案内させていただきましたが、この予想では1～3月の見通しを読み違い結果として保守的になっていました。景気上昇局面で先に上がってくると考えているベアリングでは、足元では予想を超えるような強い需要が「湧き上がってきた」というのが実感で、1～3月は従来にも増して非常に強い動向となっています。そのため営業利益予想を600億円とすることも検討しましたが、今回は保守的に580億円とし、半導体の問題などがあってもそれを超えて実質的な増収増益を果たしたいと思います。

今回お伝えしたいのは、ポストコロナに向けて「全軍突撃体制」を作るとことです。ボールベアリングの生産能力は月産250百万個から2回の投資でそれぞれ10百万個ずつ引き上げることを目指していましたが、実際にはさらに生産性改善も奏功し、315百万個となっていました。その後の生産性改善の結果、これが今般325百万個までさらに引き上がりました。3月の生産数量は315百万個を見込んでいますが、十分これに対応できることをお示したいと思います。

このような先手を打った投資や生産性改善があって急激な経済回復や需要喚起に対応できておりますが、次も新たな投資で来期の終わりを目途に345百万個体制を既存工場内に構築していきたいと考えています。その結果として既存工場はこれ以上設備が入らない状況になりますが、機械加工品を成長させる様々な施策を検討しておりますので、これについては5月の決算説明会でご案内させていただきたいと思います。

次の成長製品については、ボールベアリング、カメラアクチュエータ(OIS)、モーター、そしてアナログ半導体の4製品が当面の成長をけん引していくという自信を深めています。モーターについては今期2,000億円、来期2,300億円以上、再来期は2,800億円という売上目標があり、それに向けて様々なモーターがピックアップしてきています。アナログ半導体は、当初は2、3年後に営業利益100億円を目指すとしていたものが今年達成できる見込みが出てきました。8本槍の中の3本に加えて、OISの新しく成長する製品も前面に出していきたいと考えます。

LEDバックライトについては昨今非常に引き合いが強く、今後のシナリオでもLEDバックライトがなくなるという想定は一切ありません。

2017年発表のイメージは 23/3期に実現の可能性が見えてきた！

事業毎の内訳（23/3期）

●機械加工品	500億円
●電子機器	300億円
●ミツミ事業	300億円
●ユーシン事業	100億円
●調整額等	△200億円

M&Aで上乘せ！

（ご参考）2017年5月決算説明会
でのイメージ（21/3期）

●機械加工品	500億円
●電子機器	300億円
●ミツミ事業	200億円
●M&A	150億円
●調整額等	△150億円

2021/2/5

15

右下にあるのは、2017年5月の決算説明会において2021年3月期に1,000億円達成するときのイメージとしてお示したものです。残念ながら発表後に米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響がありましたが、本日申し上げたいのは2023年3月期にはこのイメージに極めて近い形で実現できるのではということです。機械加工品ではボールベアリングの生産が3億個を優に超えるの見込まれます。電子機器ではモーターが大きなけん引力になっていきます。ミツミ事業はすでに2本柱であるOISとアナログ半導体の収益が確立しています。ユーシン事業は構造改革を予定しており、現地労働組合とも折衝を始めたところです。法律の問題もあり現時点でマグニチュードをお示しすることはできませんが、5月にはもう少し詳しくご案内できると思います。

ポストコロナについては、今年の12月以降から一部でコロナ前の姿が徐々に戻ってくるという想定のもと、航空機業界も復活を始めていくシナリオとしています。航空会社では維持費が大変なため効率の悪い古い航空機を処分しているということで、回復局面に入ればいま自動車で起きていることが航空機でも起きてくだろうと考えています。当社は航空機関連だけで100億円を超える減益要因があるため、これが戻ってくれば機械加工品は再来期には500億円を超えてくるのではと思います。モーターは、世界のGDP成長を受けて高所得者が増え、高級商品が売れ、高級部品が必要とされる中で増えていき、電子機器の成長のコアになります。ミツミ事業ではアナログ半導体で再来期に150億円を目指しています。しばらくは好調なマーケットが続き、様々な施策で生産能力も上がっていきます。ユーシンはいろいろな手を打つことで当初お約束している100億円をなるべく早期に達成したいと思います。

自社株買い決議（2021年2月5日）

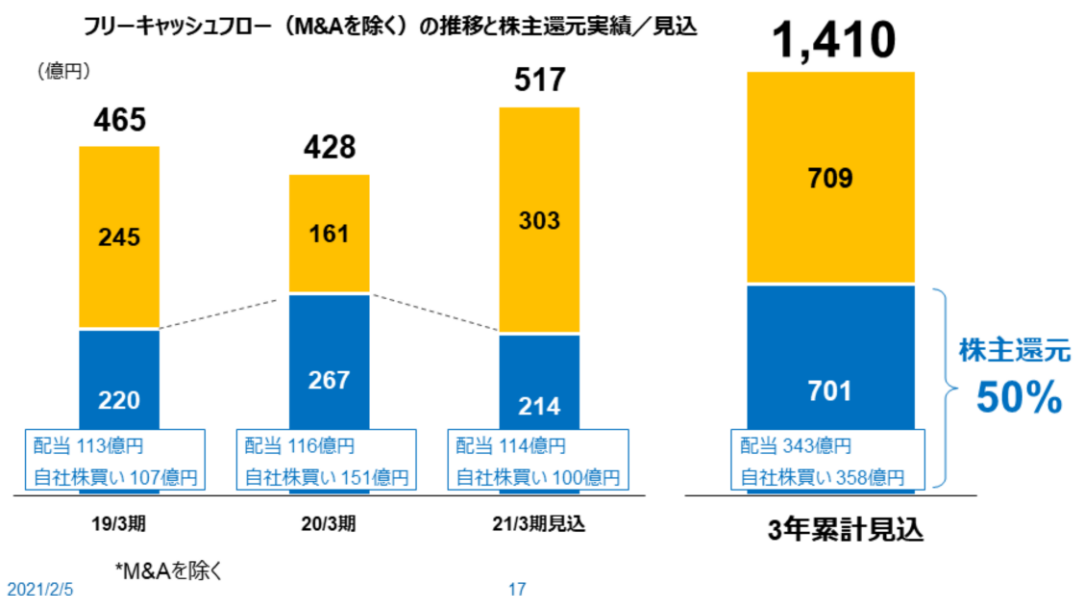
- 取得株式総数：上限 400万株
（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.0%）
- 取得株式総額：上限 100億円
- 取得期間：2021年2月8日から2021年4月30日まで
- 理由：株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた
機動的な資本政策を遂行するため

2021/2/5

16

自社株買いは5月（期末決算）に発表したほうがよいのではという議論も社内でありましたが、私は今がその時期だと考えました。将来を確実に予想することは不可能ですが、明るい未来を前提とした我々の想定する企業価値に対して足元の株価は割安で、大きな開きがあるのではないかと考えます。取得価額の総額は100億円と決議いたしましたが、その理由については次のページをご覧ください。

株主還元は2019年5月発表の キャッシュアロケーション方針に則り実施 (複数年でフリーキャッシュフロー*の50%を株主還元)



従前よりフリーキャッシュフローの半分を株主還元にあてるとご案内してまいりました。こちらのスライドでは2019年3月期以降の配当と自社株買いを合わせた株主還元の割合をお示ししています。3年間の株主還元をすべて足し合わせると、今回100億円の自社株買いでちょうど50%となります。

21/3期 配当

期末配当
(予想) **14** 円/株

年間
(予想) **28** 円/株

中長期的なキャッシュアロケーション方針は不変
(フリーキャッシュフローの50%を株主還元)

(ご参考) 20/3期 配当

年間配当28円 (中間配当14円 期末配当14円)

配当は28円とさせていただきたく存じます。

SADIOT* LOCK

*Smart Activated Devices with Internet of Things



2021年2月3日(水)
販売開始*!

*ユーシンショウワより販売

SALIOT pico (サリオ ピコ)



2021年3月16日(火)
販売開始予定!

自社製マスク



累計約**600万**枚
販売!

2021/2/5

19

BtoCビジネスについて、社会貢献という目的で自社製マスクの販売をおこない、おかげさまで累計600万枚を様々な方々に販売させていただきました。この取り組みはまだ続けていかなければならない社会情勢ですが、これで儲けることはしないという意思のもとで、価格も改訂してやってまいります。その他、小さな第一歩としてユーシンからスマートロックを発売させていただきました。また、ミネベアミツミから初の家庭用スマート照明機器としてサリオ ピコを販売開始予定で、これらについてはウェブサイト等でご確認いただきたいと思います。BtoCビジネスを勉強していきながら、新たに収益拡大に貢献するツールになればと考えています。



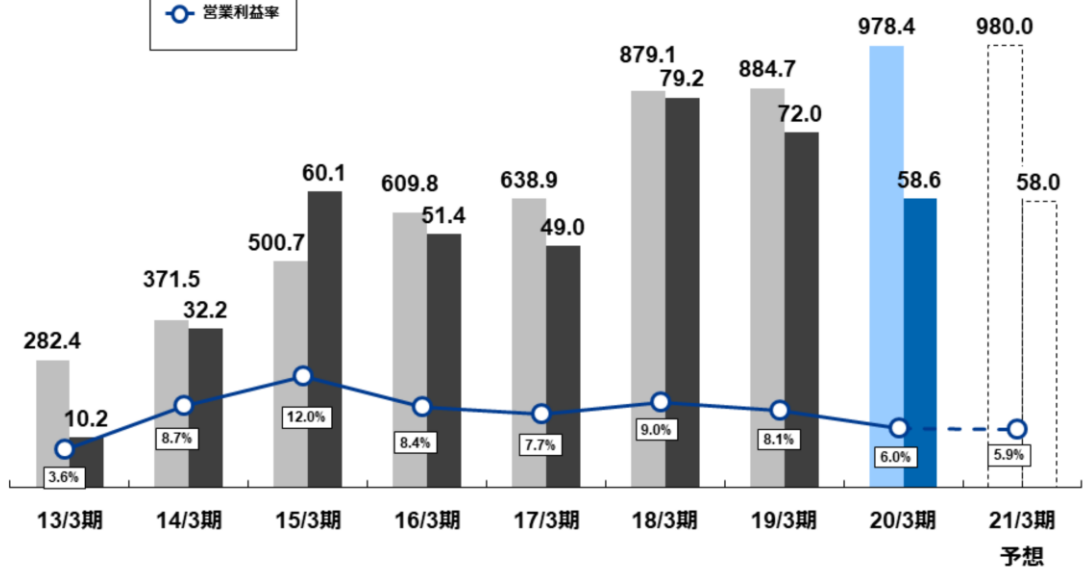
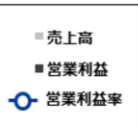
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高、営業利益、営業利益率

18/3期以前はJGAAP

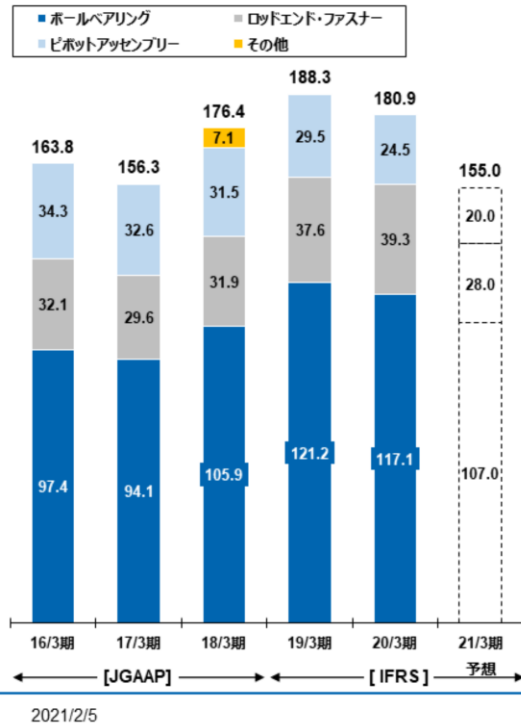
(10億円)



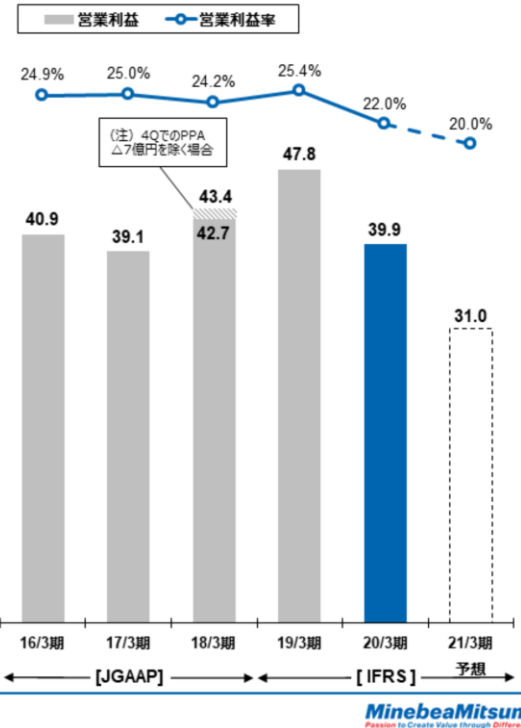
← [JGAAP] → [IFRS] →

2021/2/5 22 MinebeaMitsumi Passion to Create Value through Difference

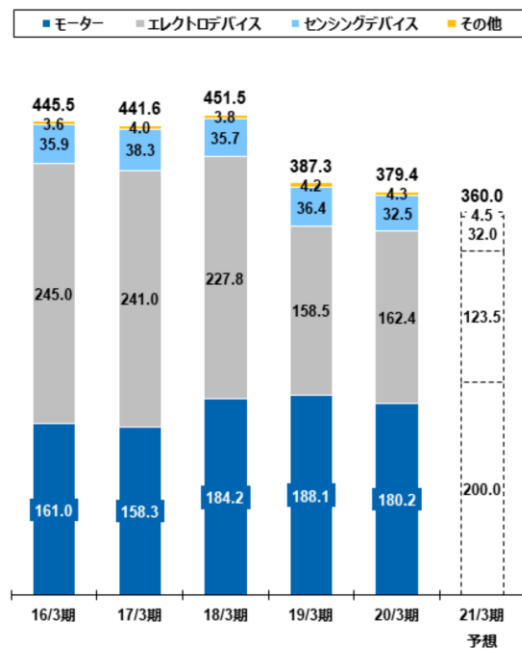
売上高 (10億円)



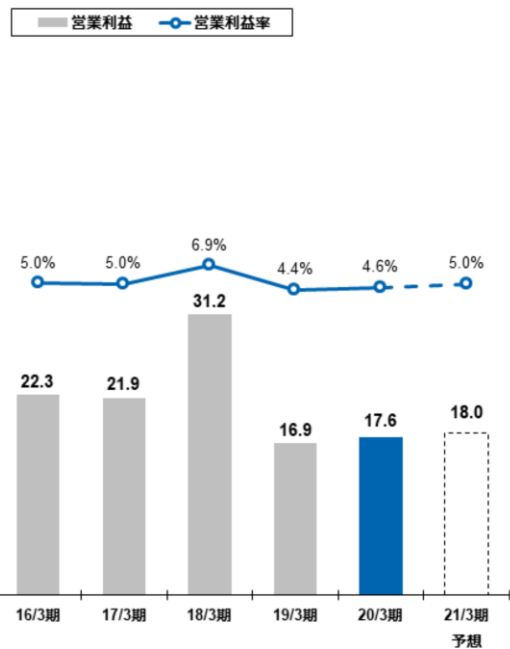
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/2/5

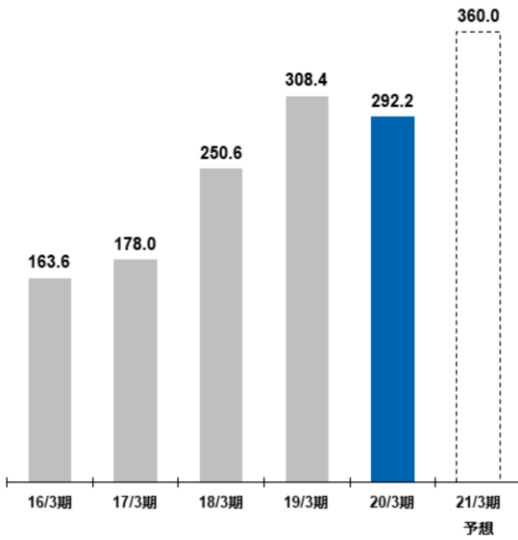
24

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

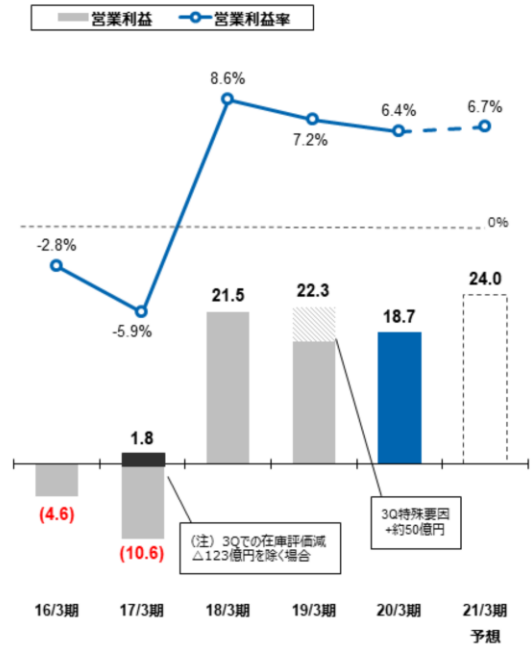
ミツミ事業セグメント

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



← [JGAAP] → ← [IFRS] → ← [JGAAP] → ← [IFRS] →

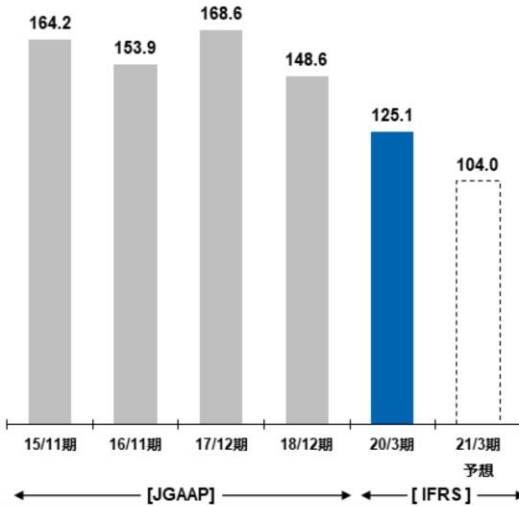
2021/2/5 25

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

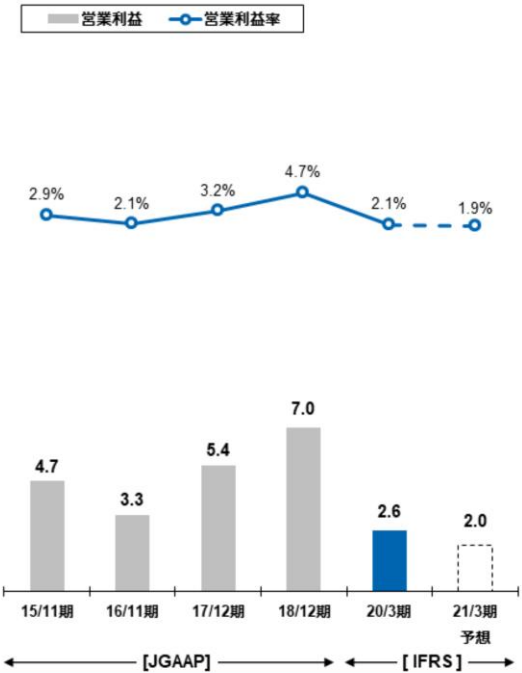
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2021/2/5

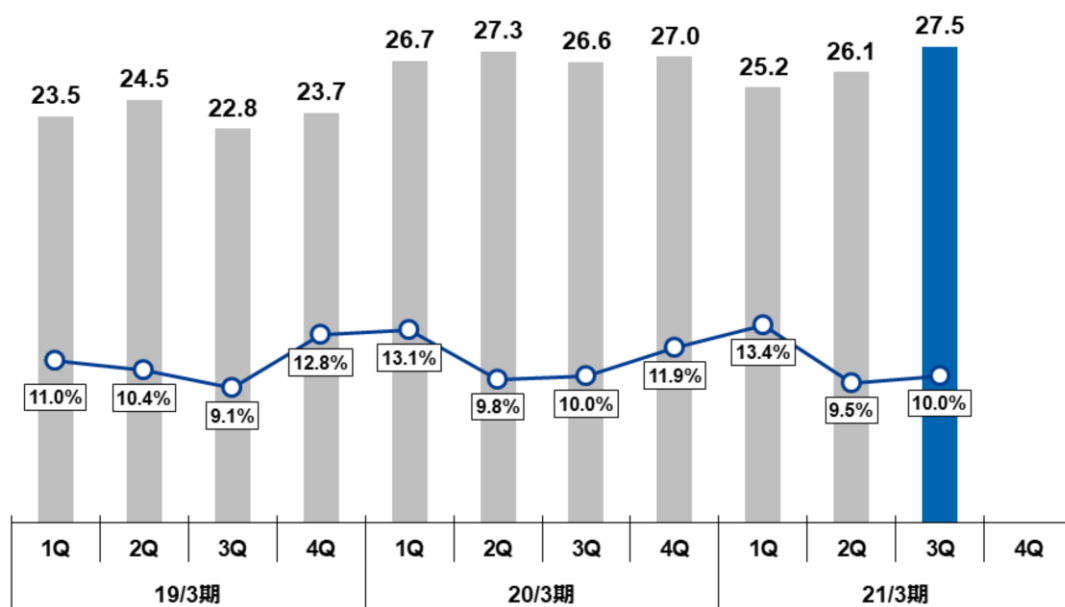
26

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

販管費

(10億円)

■ 販管費 ● 売上高販管費比率



2021/2/5

27

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

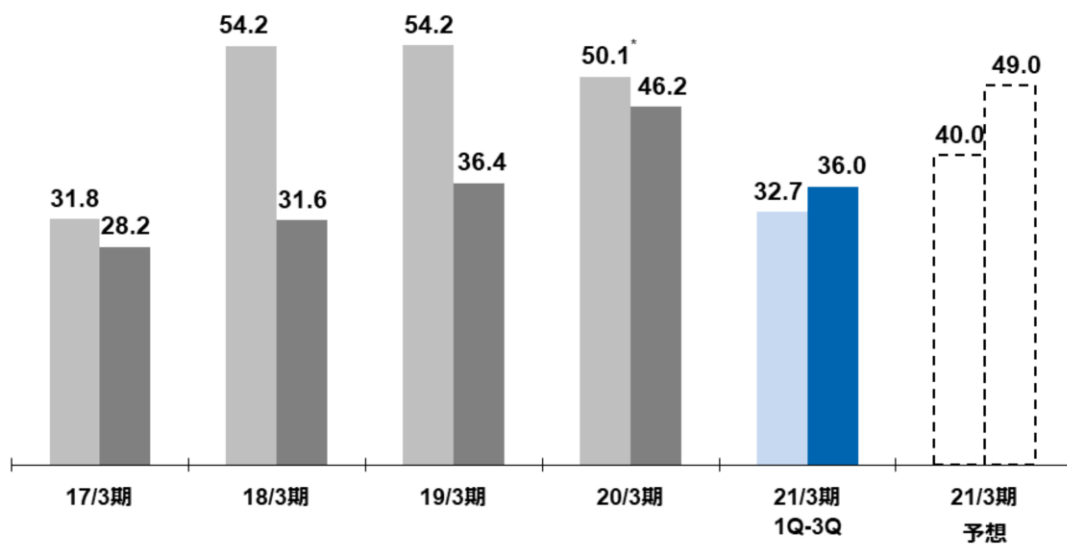
設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP] → [IFRS] →

2021/2/5

28

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版
ROIC

=
NOPAT
投下資本

(営業利益+特別損益) × (1-税率)

(受取手形・売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形・買掛金)

セグメント別で管理できる事業資産(売上債権・債務、棚卸資産、固定資産)で算出

